

主任コラム10月号

主任 澤井 良子

9月は、鈴峰中学校の学生さん8名が職場体験にきてくれました。保育園を職場体験に選んだ理由はそれぞれでしたが、今の保育指針が子ども達を「お世話する」ではなく「発達に応じてどう援助し見守っていくのか」という、保育園としての役割を伝えてから保育室に入り体験をしてもらいました。積極的に子どもたちに関わり、また手が空いた時には「何かありますか？」という声や、私が何かを用意しようすると「私が持ちます！」と保育士の動きを見て察するということや、特に挨拶や声掛けが気持ち良く好感がもてる学生さん達で、私たち職員にとっても学びとなりました。最終日に感想を聞いてみると「0・1歳児は言葉を発しない分、気持ちに気付くのが難しかった」「幼児クラスで、泣いている子にどうしたらいいかわからなかった」「大変な仕事だと思って取り組んだが、やはり大変だった。けれど、先生たちが楽しそうにみえた」「自分が保育園の時に体験してきたことと今の保育園が違った。1人1人に合った接し方をしていた」「給食の時間がびっくりした。自分で食べられる量をセミバイキングで伝えられることや、食べなくてはいけない（完食しなくてはならない）ということがないのだと思った」とそれぞれが感じたことを伝えてくれました。保育園が『〇〇ができるようにさせる』ということが到達目標ではなく、『子どもが生涯にわたる人間形成にとって極めて重要な時期の基礎を培う力をつけること』が大切であり、子どもが望む時には応答的に応え、気持ちを伝えられ、相手の気持ちに気付くことのできる非認知能力を育てていくことが大事だということが少しでも感じ、これからの社会にでた時にこの体験が役に立つことがあればいいなと感じました。



9月26日・27日に年長児のお泊り保育が四日市市自然の家でありました。この日に向けて、夕飯のメニューを3つの中から1つ選ぶ事に関しても、一人の意見も無駄にすることなくみんなが納得するにはどうしたらいいのか？グループをまとめるリーダーをどうやって決めるのか？係やお当番活動をどのように決めるのか？など、たくさんの話し合いを積み重ねながら当日を迎えました。お泊り保育の中で今年の年長児は、他人を思いやる姿や責任感が育っているということや、自分の身の回りのことがきちんとできる子が多いなと感じました。特に、入浴でも自分で髪の毛や身体が洗える子、また身体を拭いて、身辺整理ができる子が多くて感心しました。何人かの子は「お泊り保育に向けて、自分で髪の毛も洗うように練習してきた」と聞き、ご家庭でも見守っていて下さっていたということも分かりました。お泊り保育中「楽しい」「お泊り保育って楽しんや」「もう1回やりたい」という声は何回も聞かれて嬉しくなりました。緊張も心配もあったと思いますが、誰一人抜けることなく最後まで参加し、終了証書を受け取ることができて良かったです。年長児もこの行事を通して大きく成長したと思います。また、お迎えの時には『先生達、大変だったよね。大丈夫？ゆっくり休んでね』という言葉がたくさんの方から掛けてもらい温かい気持ちになりました。日々の保育や行事にご理解・ご協力いただきありがとうございます。

